

会長就任のご挨拶

原 口 紘 丞

2007年度の会長就任にあたり、ご挨拶申し上げます。会員数8000人を超える学会の代表としての職責の重さに不安を感じておりますが、会員の皆様にご支援、ご助力をいただけることを信じて職責を努めさせていただきますので、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、本会は設立57年目を迎えました。これまで歴代の会長、役員の皆様のご尽力、そして会員の皆様のご支援、ご協力によって、本会はわが国において重要な役割を担う学会として発展してきました。学会の使命は、科学技術の基盤となる学問の発展と普及、その実践を担う研究者・技術者の養成と交流、そして科学技術による社会貢献であると思ひます。本会は分析化学が関係する学会としてのそのような使命と社会的責任を果たすことで、社会的に認知されてきました。

20世紀は基礎学問とその理論や原理を利用する科学技術が飛躍的に発展し、それによって豊かな物質文明が創造され、私たちは物質文明を享受してきました。しかし、その科学と技術の発展が個別的であったために、20世紀の最後には豊かさの蔭の部分として多様な環境、エネルギー、資源、廃棄物等の問題が深刻な社会問題として顕在化してきたことはご承知のとおりであります。そして、そのような問題が地球規模、すなわちグローバルな問題となり、それらは科学技術に起因するものだけでなく、格差社会、南北問題などの社会経済システムのグローバル化による問題も指摘されています。このような社会状況のもとで、わが国はさらなる科学技術創造立国を目指して、2006年から第3次科学技術基本計画をスタートさせましたが、これからの科学技術には環境配慮型の技術開発・製品開発が求められています。

様々な問題が顕在化することは、社会システムの制度疲労によるものでありますので、新システムの導入が必要であります。本学会を取り巻く状況も、例えば昨年度の文部科学省の立ち入り検査で、本会も組織について改善が求められました。学会の中核機構である日本学術会議も、2004年から会員・連携会員で構成される新体制でスタートし、科学・科学者の倫理の確立とともに、生活者の視点に立った科学技術を21世紀イノベーションとして構築、発展させることを目指しています。私どもの日本分析化学会も50年以上が経過し、創成期、発展期から成熟期に入ろうとしていますが、これまでの成果と役割を見直し、新システムの導入による第3世代の発展を目指す時期かと思ひております。このような状況を受けて、2006年度は小泉英明会長の下で、組織検討委員会を発足させ、学会組織と役割の見直しが行われまし

た。その一つとして、2009年度から会長および理事等役員の2年任期制が決定されました。また、機構改革案も提示されています。そこで、2007年度は会員のための学会としての機能的、効率的な学会運営をめざした機構改革の実現が大きな命題となっております。社会的には、格差社会の是正、教育再生が叫ばれ、また人材育成の見直しが求められています。さらに団塊世代の大量退職の時を迎え、人材活用や技術伝承をどうするかも、大きな課題であります。このような社会的動向は学会組織・運営・活動に少なからず影響を与えますので、本学会でも先を見通した対応をする必要があるかと思ひます。本会だけの問題ではありませんが、会員減少傾向は学会にとって深刻になりつつあり、学会運営体制のあり方を根本的に考えるべき時期にきています。

学問としての分析化学の進歩と社会的役割についても、大きな変化が起こりつつあるように思ひます。大学において分析化学教育は化学の基礎知識・実験技術の習得として重要視されてきましたが、最近ではその比重が軽視される傾向にあります。また、分析化学者・分析技術者の役割も、研究開発や製品開発の支援という立場に置かれることが多いように思われます。このような「支援としての分析化学・分析技術」は先細りすることになります。これからの分析化学に携わる者は、先端分析・計測技術開発を課題として、新研究領域や新技術を自ら開拓することが求められると思ひます。科学並びに社会における分析化学・分析技術の存在感をどう再構築するかが、本会にとって大きな課題であり、使命であります。学会としては、このほかにも学会財政の長期的健全化、研究者・技術者倫理の構築、分析化学技術・学術情報の高価値化、産学官連携事業の推進、若手人材の育成、分析技術の伝承とイノベーション、国際交流の推進とアジアにおけるリーダーシップ、学会誌のあり方、化学教育への貢献など、中期・長期の将来構想を必要とする多くの課題を抱えております。これらの諸課題については、会員の皆様のご意見を拝聴しながら、理事会などにおいて十分な議論を行い、具体的な方策をまとめて、対応していきたいと考えています。しかし、最も大事なことは、「会員の皆様にとって所属意識のある学会」、「会員の皆様にとって価値のある情報提供」、「会員の皆様の職業・人生にとって役立つ会員コミュニティーの創造」であると思ひておりますので、その実現に向けて努力する所存であります。会員の皆様には叱咤、激励をいただきますよう、切にお願ひ申し上げます。